

仙台教区サポートセンター

福島デスクニュース

第20号 2015年12月

作成:仙台教区サポートセンター福島デスク
〒975-0001
福島県南相馬市原町区大町 2-197
fukushima.desk@gmail.com
Tel/Fax 0244-32-1531
080-5872-4447
<http://fukushimadesk.blogspot.jp/>

福島を想う人々とともに、「いのち」のバトンパス



毎月11日、沿岸部では県警本部などによる東日本大震災行方不明者の一斉捜索が行われる。スコップで掘り、行方不明者の手掛かりを捜す。「行方が分からない人を一日でも早く家族の元に帰せるように、今後も捜索に取り組みたい。」警察官のことばがテレビ、新聞等で報道される。月命日である11日は、皆が立ち止まり祈りをささげ、また歩みを始める日となった。

この4年9か月、多くの人が福島を訪れ、それぞれの持ち味を生かしつつ、人々の想い、喜びと希望、苦しみと悲しみに向き合ってきた。今号ではその中の一人、広島県のボランティアが見た福島を紹介する。その温かいまなざしには学ぶことが多い。

【左写真】高さ7mのクリスマスツリーには白色とピンク色のLEDライト1万球が使用されている。震災の3か月前、「とみおか冬のさくら」と題し、現在は原発事故により避難を強いられている富岡町の桜並木を飾ったLEDライトだ。富岡町の申し入れにより、帰還がかない再び富岡町を彩る日を願って、ある商業施設に飾られている。「希望の光ツリー」と名付けられた。

私が見た飯館、南相馬は今

伊藤 望 (広島教区・福山教会)

10月下旬南相馬市へ行きました。その折に私が見たこと、気付きをお伝えします。

JR 福島駅からバスで南相馬に向う道中飯館村を通ります。8月の頃は人影も見えなかったこの村で、除染作業が急ピッチに行われ、土を掘りかえすパワーショベル機(ユンボ)が至る所で働き、大型トラックが行き交い、道路工事が行われ、除染物資を入れた黒い袋が何十、何百と寄せ集められ・・・といった風景が今までに見た風景と異なる点でした。

来年4月に帰還予定の南相馬市小高区でもその受け入れ準備作業が多方面にわたり展開されています。JR常磐線小高駅は現在、駅舎がシートで覆われ改修作業。近づくペンキ塗りのたてのおいがしました。常磐線不通区間もついに5年後の再開に向けて鉄道、沿線が整備されつつありました。線路の下の砂利を入れ替えるだけでもたいへんな作業です。そんな中、還ってくる人を迎えようと駅前の小さな花壇にパンジーが植えて

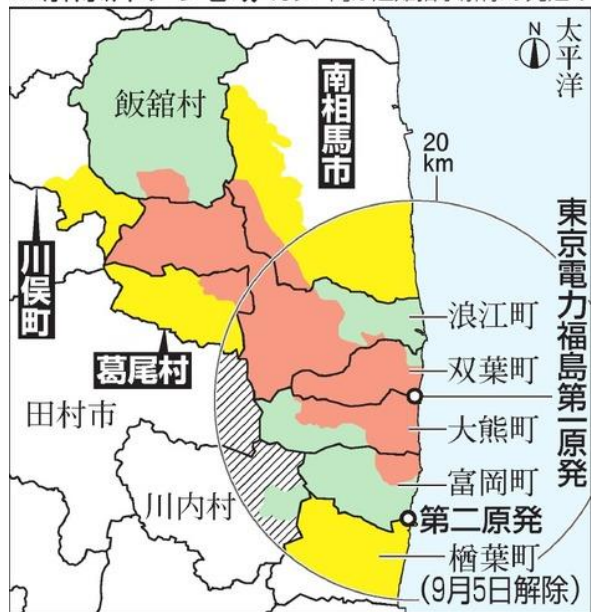


ありました。こんな小さなことの中に大切なメッセージが込められています。花は人の心を和ませます。すばらしい企画と実行です。町を歩くと、家の改修、取り壊し、新築などの槌音があちらこちらから聞こえました。小高駅の近くに「ぷらっとほーむ」という場が新たに設けられていました。ここは誰もがぷらっと立ち寄り、ホームのような雰囲気味わってほしいという町の有志によって作られた憩いの場です。これまた、かつての人々のつながりを取り戻そうとする試みになるほど深く頷きました。私は、花いっぱい運動の一環でパンジーとチューリップの球根の植え付け作業を手伝いました。これは小高区から避難生活をされている鹿島の仮設住宅地でも行われました。駅前の花壇と同じように、花を育てること



準備宿泊が始まった3市町村と周辺の避難指示区域

- 準備宿泊対象地域(来春まで)
- その他の避難指示区域(2017年3月まで)
- 帰還困難区域(めど立たず)
- 〰 解除済みの地域 カッコ内は避難指示解除の見込み



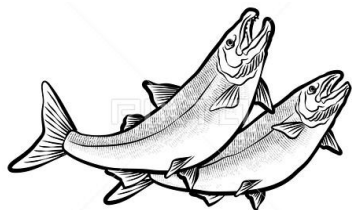
【上図】8月31日、来春の住民帰還に向けて南相馬市小高区、川俣町、葛尾村の3市町村(図の黄色の地域)で準備宿泊が始まった。(参照 朝日デジタル 2015/9/1)

は、人の心に潤いをもたらし、プランターに植え付ける作業段階から協力と笑顔の姿が見えました。

来年の避難指示解除に向け、買い物、病院、学校、荒れた住宅と家族の今後、町内のつながり、広大な農地など一つ一つが困難な課題が多く、前途多難ですが、それでも、いや、だからこそ一歩を踏み出す明日への希望、元気、協力、諦めない心を今こそ必要としています。

<ニュース>

- ・南相馬市太田川で鮭の産卵 震災の年に生まれた鮭が親となって故郷の川に帰り、命のバトンパスをしていました。狭い川に何十匹も群れ、川床の少し窪んだ所に盛んに産卵。もう既に身は所々白くなり、やつれて見えました。産卵を終えた鮭は死に絶えて、後は流れに身を任せます。命を最後まで燃焼しつくす鮭の姿に私達一同心を打たれました。西日本で暮らす私たちにとって初めて見る印象深い光景でした。



10月30日、31日と広島県福山市の福山暁の星小学校保護会7名のお父さん方が南相馬を訪問し、福島、南相馬の現状に直面。例えば黒いトン袋¹一つとっても、「いくら写真で見ても本物を見ないことにはその大きさとか実感できず、やはり来て見ないと分かりづらい。その意味で来て良かった。」と全員が口々に言いました。伊藤 望(広島教区・福山教会)

1) 原発事故に伴う除染廃棄物の入った収納袋。1トン程度の重量物を保管できることから「トン袋」と呼ばれる。正式には、フレキシブルコンテナバッグ (Flexible Containers)。